

## 令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表要旨

農業大学校名 山形県立農林大学校 学科名 畜産経営学科 学年 2年 氏名 鈴木 広美  
すずき ひろみ

### 1 課 題

健康でおいしい米沢牛生産を目指した飼料給与技術の検討

### 2 課題設定の理由

我が家は、米沢牛の生産農家である。米沢牛銘柄の定義の一項目である肥育期間が令和5年12月から延長されることになっており、品質向上が期待される一方、病気や死亡のリスクが高まる懸念がある。長期肥育生産者への聞き取り調査の結果、病気等のリスク低減のためには健康観察による異変の早期発見が重要であることがわかった。そこで、健康観察項目の一つである飼料の食い止まり対策について、我が家の食い止まり対策を中心に、給与方法の違いが肥育成績に及ぼす影響を検討した。また、肥育経営では肉質の良さだけでなく枝肉重量の確保も重要であることから、増体や肉質の向上効果が期待される全脂大豆飼料を給与し、その影響を調査した。

### 3 実施方法

- (1) 黒毛和種雌肥育牛を供試し、22ヶ月齢から出荷までの期間中、1日2回給与および週1回絶食の給与方法で飼育した。本校慣行の1日3回給与の肥育牛を対照区とし、体重、治療歴、枝肉成績を調査した。
- (2) 黒毛和種雌肥育牛を供試し、22ヶ月齢から出荷までの期間中、全脂大豆飼料400g/日を本校慣行飼料に加えて給与した。慣行飼料のみの肥育牛を対照区とし、体重、枝肉成績、食味評価を調査した。また、消費者の意見を把握するため、枝肉購買業者の協力のもと試験区の牛肉にQRコードを貼付して販売し、アンケート調査を実施した。

### 4 結 果

- (1) 試験期間中の増加体重、DG（日増体重）ともに試験区が対照区を上回った。食い止まりなどに伴う治療回数は対照区より大幅に少なかった。枝肉成績は、対照区の枝肉重量432kg、BMS No. 6.3に対し、試験区は同549kg、同No. 9.0であった。
- (2) 試験期間中の増加体重、DGともに全脂大豆飼料を給与した試験区が対照区を上回った。枝肉等級はいずれの試験区もA-5であり、枝肉重量は試験区が約80kg大きく、バラも厚かった。食味評価では、試験区の方が脂の口溶けがさっぱりしている、好ましいという意見が全体の80%以上であった。QRコードでのアンケートでも、おいしい、また食べたいとの回答が多かった。

### 5 考 察

1日2回給与と週1回の絶食および全脂大豆飼料の給与によって、順調な体重増加や良好な枝肉成績、高い食味評価が得られたことから、今回の試験結果を踏まえた給与方法を我が家で自信を持って行い、健康で発育の良いおいしい米沢牛を育てていきたい。また、飼料費の高騰が続く中、国として国産大豆増産の方針が打ち出されていることから、地元産の規格外大豆を飼料化して給与することにより、付加価値の高い米沢牛生産につなげたい。